※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真１）（表１）などと文中に記載し、右ページに（写真１）（表１）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

【様式１】

＜エントリーシート＞ ※ 事 務 局 記 入 欄 **No.：A-40**	部門 平成 30 年度教職員等中央研修 （第１回副校長・教頭等研修）	学校名・氏名 宮代町立須賀小学校・白石昌孝
	活動名 安心・安全な学校づくり 教職員意識改革と家庭地域との連携	

課題の設定：

若い年代の教職員が年々増加し、世代交代が加速している状況の中、様々な教職員に関する不祥事が起こっている。このことは、教育への信頼を揺るがしかねない大きな問題である。若手、ベテランに関わらず、教職員の幅広い危機管理意識を向上させること、また学校・家庭・地域との連携を図ることで、安心・安全な学校づくりができると考え、本課題を設定した。

方針・計画：

・教職員倫理確立委員会、服務研修会等の内容を工夫することにより、教職員の危機管理意識が高まり、子供のより安心・安全な学校生活が図られるであろう。
・学校家庭地域の連携が深めるための取組を充実させることにより、家庭地域からの信頼が高まり、学校家庭地域が一体となった安心安全な学校づくりが図られるであろう。

活動内容：

・教職員倫理確立委員会及び服務研修において、様々な教職員事故事例等からどこに危機管理意識をもつ必要があるのか、考えさせる機会を設ける。また、自分のこととして考えられるよう、意識調査をもとに自己の注意ポイントを考えさせる。（図１～４）
・学校応援団会議、学校安全パトロール会議等を年間に計画的に実施し、内容の充実と縦・横のつながりを密にする。（写真２～３）

活動の成果：

・危機管理意識を高めるため、イラストや事例を挙げて考え、話し合うことにより、こんな所にも気をつけなければならないという教職員一人一人の視点が広がった。（図１～２）
・チェックリスト等を活用することにより、自己の気をつけなければならない重点が明確になった。また、標語等を各自作成することにより、より高い危機管理意識の醸成が図れた。（図３～４）
・学校安全パトロール会議を実施し話し合いを行ったことにより、登下校等の課題点が明確になり具体的な改善策を共有できた。また、自治会長等の協力を得ることもでき、地域の安全パトロール体制の強化が図れた。
・学校応援団会議を実施し、活動内容や子供の状況、課題等を話し合ったことにより、学習支援・図書・安全パトロール・環境整備等の組織間の横の連携が図れた。また、各ボランティアを増やすよいきっかけとなった。（学校応援団ボランティア　約２９９名）（図５、写真２～４）

アピールポイント（アイディアや工夫）：

・「危機管理意識」について、視点を広げる、高める取組後、実際の通学路で危険箇所点検を行ったこと（写真１）
・教職員一人一人の状況に応じた事故防止の視点を標語等にし、掲示したこと（図４）
・安全パトロールにおいて、自治会長をはじめとしてそれぞれの地区の担当者との連携を密にしたこと
・学校応援団において、組織体制と年間活動計画を明確にしたこと（図５）
・学校応援団の活動を学校便り、ホームページ、パネル等で紹介したこと（写真４）

図１「危機管理意識の視点を広げる」

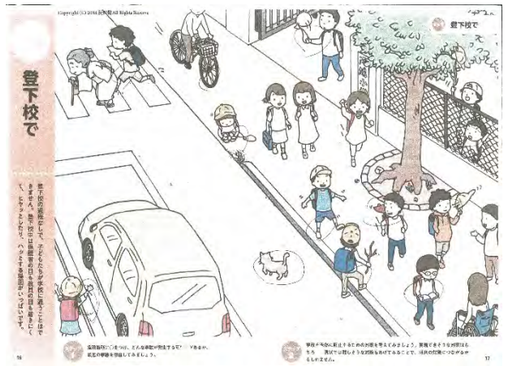

図２「危機管理意識を高める」

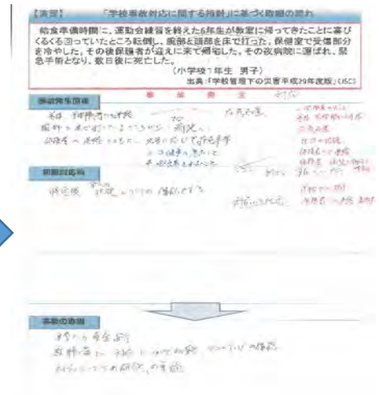

図３「自己チェック」

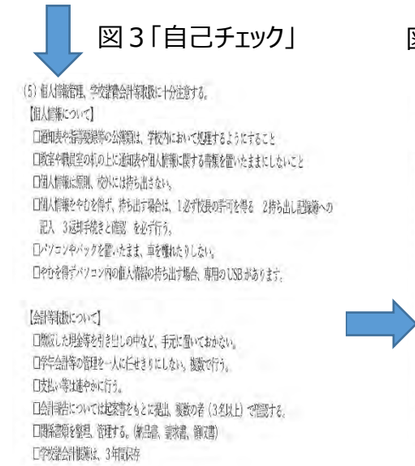

図４「倫理確立意識の強化」

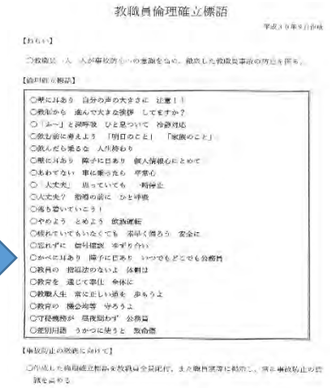

写真１「危機管理の実際」

図５「学校応援団組織図」

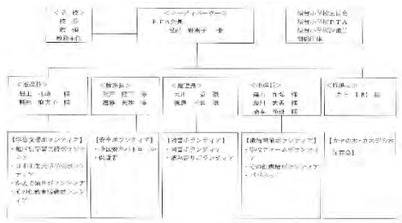

写真２「安全パトロール会議」

写真３「学校応援団の活動」

写真４
「学校応援団の取組紹介」